

文部科学省

「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」

学びから発表へ



町田市生涯学習センター

目次

2018年・2019年「学びから発表へ」での取組一覧	1
----------------------------	---

(1) 2018年度～2019年度を通した取組紹介

①若葉とそよ風のハーモニー	3
②第19回若葉とそよ風のハーモニーを終えて	8

(2) 2018年度取組紹介

①うたの教室	14
②支援者養成講座 同じまちに生きるあなたとともに	16
③スタッフ研修 青年学級の新しい流れ	18
④視察 見晴台学園・聖母の家学園	22

(3) 2019年度取組紹介

①おい！踊りって素晴らしいぞ！ヘンテコでも気にするな！ 自分だけの踊りと出会う旅	26
②障がいのある人の生涯学習を考える～ともに学ぶ場づくりを目指して～	28
③スタッフ研修～障がいのある人の学びを拡げる場～ 青年学級の新しい流れ	30
④各種コンサートへの出演	35
⑤視察・成果の周知	37

2018年・2019年「学びから発表へ」での取組一覧

若葉とそよ風のハーモニー

10月～

実行委員会で話し合おう！



2月～劇の練習スタート

3月 結団式で一致団結！

4月～まだまだ練習

5月 いざ、本番！



講座やイベント

2018年度

①うたの教室

②支援者養成講座

同じまちに生きるあなたとともに

③スタッフ研修

青年学級の新しい流れ

④視察

見晴台学園・聖母の家学園

2019年度

①おーい！踊りって素晴らしいぞ！ヘンテコでも気にするな！

自分だけの踊りと出会う旅

②障がいのある人の

生涯学習を考える

～ともに学ぶ場づくりを目指して～

③スタッフ研修

～障がいのある人の

学びを拡げる場～

青年学級の新しい流れ

④各種コンサートへの出演

⑤視察・成果の周知

(1) 2018年度～2019年度を通した取組紹介

①若葉とそよ風のハーモニー

②第19回若葉とそよ風のハーモニーを終えて

第19回 若葉とそよ風のハーモニーコンサート

ねらい

町田市生涯学習センターの主催事業、障がい者青年学級の活動から生まれた市民活動としての“若葉とそよ風のハーモニーコンサート”（以下、わかそよ）を、受託を契機に生涯学習センター主催事業として実施することで、わかそよが作られていく過程を描く。

成果

- ①150名程度の当事者が話し合いを重ね、全体で取り組むテーマを決め、コンサートを作り上げたことによって、主体性が養われた。
- ②600名程度の観覧者の内、初めて観覧の割合が過半数だったことから、社会全体の障がい理解の向上につながった。

(1) 若葉とそよ風のハーモニー実行委員会

10月の第1回を皮切りに、3月下旬までの合計7回を実施し、延297名の参加

話し合った内容

- ・わかそよを実施するにあたってのテーマ決め
「いのちのかずだけおもはある
～みんなちがってもいっしょに生きる～」
- ・実行委員長の選出
- ・チラシやポスター、わかそよTシャツの色について



実行委員会で話し合う風景

(2) 第1部(劇)の練習

2月～5月の毎週火曜日午後6時～8時まで、劇の練習を合計14回実施し、延236名の参加

練習した内容

- ・わかそよ音頭の練習
- ・「ひとのかずだけおもいはある」(一幕三場)の練習



第1部(劇)の練習風景

(3)結団式

3月31日にわかそよに参加する一同が集い、5つの団体間での発表内容の情報共有を行いました。



(4)全体練習

本番前1ヶ月は、毎週日曜日に集まって、午前は全体練習、午後は5つの団体に分かれて練習に励みました。

前日仕込風景



(5)本番当日

当日は、午前中にリハーサルを行い、本番に備えます。

第1部(劇)と第2部(合唱)の構成で行われました。

第1部(劇)の様子





お客さんに思いが届くよう
頑張っている様子

講座「うたの教室」から生まれた
新団体“風になる会”の発表風景



フィナーレでは、全員が舞台に

これから舞台に上がります



文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」委託事業

第19回 若葉とそよ風のハーモニーコンサート

いのちのかずだけ
おもいはある

みんなちがってもしょに生きる

障がいのある仲間の日ごろの思いを
こめたオリジナルソングを届けます

日時 2019年5月11日(土)

会場 町田市民ホール(町田市森野2-2-36)

入場無料

午後1時30分開演(1時開場)

問合せ 町田市生涯学習センター (TEL:042-728-0071)



いのちのかずだけ おもいはある ～みんなちがってもしいしょに生きる～

第19回 若葉とそよ風のハーモニーコンサート

若葉とそよ風のハーモニーは、町田市教育委員会生涯学習センター・公民館の障がい者青年学級にどう仲間たちが、市民ホールの舞台上に立って自分たちの思いを多くの人に伝えたいと、1988年に始めたコンサート活動です。これまで18回のコンサートを開催し、その取り組みが認められ、2016年に町田市から「文化芸術功労者」として表彰されました。また、文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」として、障がい者青年学級の活動の中で、若葉とそよ風のハーモニー実行委員会を行い、多くの話し合いを今まで以上に行うことができました。

今回は、コンサートの第1部では、「いのちがあるからこそ、私たちは輝ける」というメッセージを歌とダンスで表現します。第2部の「わかそよ合唱団ライブ」では、津久井やまゆり園事件のことも含め、青年学級の活動で話してきたことをオリジナルソングと言葉でステージから発信します。ご期待ください。

皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

第1部

『ひとのかずだけ おもいはある』

日頃の生活や仕事の中での差別や悩み。さらには優生思想に起因する社会の矛盾。ほんろうされながらも、前向きに考え、話し合い、力いっぱい活動する私たちの思いを言葉と歌とダンスで表現します。

第2部

わかそよ合唱団ライブ

わかそよ定番のナンバーから、初披露の新曲までみんなで力いっぱい歌い上げます。お届けしますのは、すべて出演者が作ったオリジナルソングです。皆様も手拍子とともに楽しみください。

PROFILE

若葉とそよ風のハーモニー合唱団

町田市障がい者青年学級と本人活動の会“とびたつ会”のほかに、今年から新たに「うたの教室」講座から生まれた“風になる会”が加わりました。

それぞれが主体的に生きられるよう、一人ひとりの思いを大切にしながら活動しています。



定員：600名（先着順・全席自由・入場無料）
TEL申込：4/2(火)正午～5/6(月)にイベントダイヤル
(TEL:042-724-5656)へ

Web申込：4/1(月)正午～午後7時
4/2(火)正午～5/6(月)
に町田市ホームページよりイベシ
スへ

イベントコード：190402F



イベシスQRコード

2019年5月11日(土)

午後1:30-3:30 (1時開場)

町田市民ホール



小田急線町田駅西口から徒歩10分 バス停「町田市役所市民
ホール前」から徒歩1分 (駐車場なし)

申込：イベントダイヤル TEL 042-724-5656

お問い合わせ：町田市生涯学習センター TEL 042-728-0071

演出・振付：青木礼 照明：タケスタジオ 伴奏：わかそよバンド

主催：町田市教育委員会 協力：第19回若葉とそよ風のハーモニー実行委員会・株式会社ブリヂストン

第 19 回若葉とそよ風のハーモニーコンサートを終えて

1 目的

2018 年度、2019 年度と、町田市障がい者青年学級では、文部科学省の「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」の委託研究を引き受けることになりました。私たちが取り組もうとしたことは、障がい当事者の思いを集めて、社会にアピールする実践を、どこでも取り組めるように可視化し、プログラム化することでした。そして、その成果を、「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」として発表することを目指しました。

この論考では、これまでの青年学級の歴史を振り返りつつ、社会教育として取り組んだ意義を確認します。

2 障害者権利条約をめぐる

ところで、障がい者の生涯学習の問題が、今、この時期に、文部科学省によって取り上げられるのは、障害者権利条約において、生涯にわたる学びの重要性が指摘されているからであり、その第 24 条教育の第 5 項には、「締約国は、障害者が、差別なしに、かつ、他の者との平等を基礎として、一般的な高等教育、職業訓練、成人教育及び生涯学習を享受することができるところを確保する。このため、締約国は、合理的配慮が障害者に提供されることを確保する。」と述べられています。

長い間、障がい者の社会教育活動に取り組んできた私たちにとっては、障害者権利条約のおかげで、ようやく私たちの取り組みにも光があてられたとの思いがしています。

今回の事業は、2 年度にわたって取り組まれている実践ですが、この実践には長い歴史と、その中で築き上げられた実践の理論とでも言うべきものがありま

そこで、ここでは社会教育活動としての障がい者青年学級の歴史や実践が目ざしてきたものについて整理し、障がい者の生涯学習のあるべき一つのかたちを提示したいと思います。

3 障がい者青年学級が目ざしたもの

町田市障がい者青年学級の誕生は 1974 年のことです。当時、「事件や非行などにまきこまれないように」という親の願いが始まりでした。その願いは切実なものだったとはいえ、それは、言わば「保護」を求めるものであり、現在議論されている生涯学習とは異なります。それは、生涯学習というものが、学びたいという当事者自身の願いに基づくものであるからです。

町田ではこの親の願いを、社会教育の活動として受け止めることになりました。障がい者の社会教育という未知の領域でしたが、その活動を進める基本的な考えとして、二つのものをよりどころとしました。すなわち、当時、勤労青年のために開かれていた青年学級と、養護学校義務制の議論とともに高まりつつあった障がい者の発達を保障するという理念でした。

前者においては、参加者が主体的に学ぶというスタイルが確立されており、また、後者では、学ぶことによる当事者自身の人格的な発達の可能性と重要性が明らかにされていたのです。

そして、「生きる力、働く力の獲得」という目的をかかげ、実践は始まったのですが、最初の 10 年の実践を通じて、いくつかのことが明らかになりました。それは、実践に必要な 3 つの条件です。すなわち、①障がい当事者自身の自治的集団活動、②生活をテーマにすえること、

③表現活動を主軸とする文化創造活動です。

最初の自治的集団活動の必要性は、一般の青年学級の実践から受け継いだものでもあります。当事者自身が主体性を奪われてきたということがもっとも大きな理由です。これは、当時も現在も基本的に変わることはないと思われまふ。受け身的に生きることをしいられた当事者の主体性を回復し、主体的に学ぶ存在として自分自身や仲間を変革していくことをぬきに、生涯学習を語ることとはできないと私たちは考えています。

二番目のテーマとして「生活」をすえるということについては、まず、「生活の場からいったん離れる」ということとの違いが議論されてきました。レクレーションというものは、社会教育や生涯学習の場でよく取り組まれるものですが、それは、いったん日常生活を離れてリフレッシュして、再び生活に戻っていくというニュアンスを持っています。もちろん、障がい者青年学級には、そのような側面は常にありますし、大切な部分でもあります。ただ、私たちは、あえて生活から離れるのではなく、生活をテーマとすることが重要であると考えました。自治的活動で述べた主体性が真に確立されるためには、障がいによって生まれる様々な差別や困難、その中でなお、力強く生きている自分を確認することをぬきにしてはありえないと考えるからです。そして、そのような問題を共有するからこそ、自治的な集団活動も、よりいっそう深い仲間意識に裏打ちされたものになっていきます。

三番目の表現活動を通した文化的創造活動については、当事者が自治的な活動の中で主体的に生活を語り合うということが、当然の帰結として必要としているものでした。町田の障がい者青年学級では、初期の頃より、年度末に成果発表会に取り組んでいて、その際に、作文

を読んだり、劇を作ったりすることが試行錯誤的に行われました。そして、そうした表現活動に取り組むことが年間の活動に継続性をもたらすことが明らかとなるとともに、生活をテーマにした語り合いが、毎回流れ去っていくのではなく、表現活動としてかたちにしていくことで、一人ひとりの考えがより深まったり、その考えを仲間と深く共有していくことが可能になることが明らかになっていったのです。

また、こうした表現活動を可能にするものは、既成の文化であるよりも、手づくりの文化であることも明らかになりました。質の高い文化を享受することも重要ですが、往々にしてそれは当事者一人ひとりの生活に即したものではありません。障がいという状況の中で一人ひとりが生きている生活に即した思いを表現することを可能にする文化は、自分たちで創り出していくものだったのです。

こうした活動の中で青年学級の目的もよりいっそうはっきりしてきました。すなわち、生きる力とは自分自身の誇りと尊厳を確立することであり、働く力とは、その生きる力をもとに、仕事の意味を主体的に問い直し、その仕事に主体的に向かい合うことだ、ということです。

4 若葉とそよ風のハーモニーと青年学級

① 若葉とそよ風のハーモニーコンサートの始まり

こうした最初の10年の活動から、二つのオリジナルソングが誕生しました。一人ひとりがどんな時に輝いているかということ話を話し合いながら歌詞にした『僕らのかがやき』と、友だちともっと話をしたりいろんなところへ出かけたりしたいという思いを歌詞にした『ともだちの歌』です。そして、この歌をきっかけにして、自分たちのオリジナルソ

ングを市民ホールのステージで歌いたいという意見が出され、若葉とそよ風のハーモニーコンサートが始まりました。1988年のことです。

このコンサートは、青年学級にさらにあらたな局面を開くことになりました。それは、公民館の中に閉じていた自分たちの表現活動を社会に向けて発信する場が得られたということです。青年学級のメンバーは、文化を享受する場さえきわめて限られている状況にありながら、自分たちが文化を創り出し、それを発信する側に立つという、まったくありえないようなことが、実現されたのでした。

そして、少しずつ青年学級の活動も、コンサートという発表の場を意識したものにもなっていき、次第にたくさんのオリジナルソングが作られるようになっていったのです。

青年学級では、「地域で主人公として生きる」という言葉も大切にしてきましたが、こうした独自の文化の発信者になるということは、その言葉をかたちにする第一歩でもありました。

② コンサートの発展と本人活動の始まり

若葉とそよ風のハーモニーコンサートと平行して、青年学級では後に日本の知的障がい者の本人活動へとつながっていく動きが始まっていました。

町田の障がい者青年学級は、当時の公民館職員大石洋子さんによって、社会教育の研究会や障がい児教育の研究会の場で、積極的に紹介され、自分たちの意見をきちんと述べる集団として、少しずつ関係者の中で知られるようになっていました。そして、1990年にパリで開かれる第10回ILSMH（国際知的障害者育成会連盟）世界会議に本人を参加させようという声が親の会の全国組織で上がった時、5人の代表の中の一人を町田の青年学級から推薦してほしいとの

声がかかったのです。そして、青年学級の中でリーダー的存在であった高坂茂さんが、パリの国際会議に参加し、多くを学んできたのです。帰国後、高坂さんは、「さくら会」という日本で初めての知的障がい者の本人活動の会をつくり、これが引き金となって、1990年代に本人活動が全国各地に広がっていくこととなりました。

また、この頃、NHKが開催したシンポジウムには、同じく青年学級のリーダーであった杉本好郎さんがシンポジストとして参加しました。当時、知的障がい者がテレビに登場することはほとんどないどころか、仮に登場してもモザイクがかけられるような時代でしたから、堂々とシンポジウムで意見表明をした杉本さんの存在は、時代を大きく先取りしたものでした。数年前、日本の戦後の障がい者の歴史を特集したNHKの番組で、様々な映像を短く編集して歴史を振り返るシーンに、ほんの一瞬ではありますが、この時の杉本さんの映像が使用されており、その意味の大きさを再認識させられました。

また、1990年代には、知的障がい者の海外研修として企業の支援を受けて、青年学級のメンバーの数人が、スウェーデンやアメリカへ行き、ピープルファーストの活動など、海外でさかんになってきた本人活動を実際に見学して、大きな刺激を受けるというようなこともありました。

そして、高坂さんらが始めたさくら会の活動は、「全国手をつなぐ親の会」の中の本人部会の活動へと発展し、そうした活動が、「精神薄弱」という呼称から「知的障がい」という呼称に変わるという大きなできごとの原動力にもなっていったのです。

こうした時代背景の中で、若葉とそよ風のハーモニーコンサートも、開催は2年に1回となりましたが、次第に大きな

ものになっていきました。第4回に群読という試みを始め、それは、ミュージカルへと発展していきました。ただし、まだこの頃は、自分たちの力強く生きている姿や、輝きをテーマにしたものが主流でした。社会がいただいている知的障がい者に対する弱者としてのイメージをうちこわすことが課題であったということが出来るでしょう。

③ 社会問題を訴えるコンサートへの発展

1990年代の全国的な本人活動の展開の中で、町田でも本人活動の会を作ろうという動きが2000年代に入って始まりました。全国の本人活動の実際の姿を見れば、青年学級も十分に本人活動としての性格を備えたものでしたが、あくまでも青年学級は町田市の主催事業です。完全な本人活動の会として、青年学級から独立するかたちで、2004年に本人活動「とびたつ会」が誕生しました。

とびたつ会のメンバーの多くは、青年学級でリーダーシップをとり、活発に発言するメンバーでしたから、とびたつ会は、本格的な当事者主体の会として活動を開始し、発展していきました。自治的活動や生活をテーマにすること、表現活動を通した文化の創造活動などを重視することは、青年学級と同じでしたが、さらに、社会問題を学習するという新しい展開を見せるようになりました。

青年学級では、自分たちに関わる様々な問題を話し合うということが多いのですが、とびたつ会では、平和の学習など、市民として様々なテーマで学習を進め、改めてより広い視野から自分たちの問題を考え直してみるようになったのです。

とびたつ会の発足は若葉とそよ風のハーモニーコンサートの進め方にも新しい変化をもたらしました。それは、コンサートの実行委員会の呼びかけをと

びたつ会が青年学級に対して行い、実行委員会をひっぱっていくというかたちです。実行委員長なども、とびたつ会のメンバーから選出されるのが慣例となっていました。

かつての青年学級のメンバーが中心になっているとびたつ会ですから、大きな変化があったわけではないのですが、コンサートの企画の段階で、青年学級のメンバーが活躍する場面は、減っていったのは事実です。

とびたつ会が、社会問題に取り組んだことは、表現内容にも新しい変化をもたらすようになりました。被爆者の助産師の話を聞くことで生まれた歌『生きていこう』、障害者権利条約の学習から生まれた『私ぬきに決めないで』、原発の事故を考える話し合いから生まれた『輪をひろげよう』、出生前診断の学習会から生まれた『キレイな空』、ハンセン病の学習と多磨全生園の訪問から生まれた『あっぱれな人生』など、それまでの青年学級の歌にはなかった新しい歌が生まれています。

ところで、上述した高坂茂さんが職場の事故で2000年に亡くなるということがありました。とびたつ会の誕生というできごとを、高坂さんは見ることはできなかったのですが、それは、高坂さんの存在をぬきに語ることはできないものでした。

2001年のコンサートでは高坂さんをしのぶミュージカルを行いました。それは、日本の本人活動の礎を築いた高坂さんの活動を振り返るものでしたが、その中で、「知的障がい」という呼称に変わったことに対して高坂さんたちが果たした役割、地域での自立生活などの障がい者の権利などについて訴えました。

そして、これ以降のコンサートでは、こうした社会的な問題を、徐々に取り上げるようになっていったのです。このことは、上述したとびたつ会での社会問題

に対する取り組みと深く結びついていることは言うまでもありません。

具体的には、障害者自立支援法を問題にしたミュージカルを 2 回にわたり上演し、東日本大震災のことや出生前診断の問題を歌やミュージカルで訴え、さらに、津久井やまゆり園の事件ことを問題にした歌も最近の 2 回のコンサートでは取り上げています。

④ 新しいコミュニケーションの援助方法の導入

青年学級では、2008 年から新しいコミュニケーションの方法を導入した取り組みを行うようになりました。それは、最初は、意思疎通が困難とされてきた障がい者の重いメンバーとのコミュニケーションの試みで、パソコンと専用のワープロソフト、スイッチを用いる方法です。相手の手に触れることが必要な援助方法のため、まだ、社会的に広く承認されるにはいたってはいませんが、このことをきっかけに、それまで話し合いに言葉では参加できなかったメンバーもちゃんと気持ちが伝えられるようになり、さらに、その表現内容もたいへん深いものだったのです。しかも、言葉で気持ちを表現するメンバーも、みずからこの方法を利用するようになり、口頭では言えなかった複雑な意見を言えるようになりました。

2013 年以降、新たに手を添えて行う筆談という方法も導入され、この援助ができるスタッフも少しずつ増えていきました。

その結果、青年学級でも話し合いの内容や、作文や詩などの表現の内容がいつそう深いものとなっていきました。上述した出生前診断や東日本大震災、津久井やまゆり園の事件等の話し合いの深まりは、この新しいコミュニケーションの方法と深く関わりを持つものでもあります。

⑤ 2018 年度、2019 年度の取り組み

文部科学省の委託事業をうけ、2018 年度の活動は、青年学級として若葉とそよ風のハーモニーコンサートを企画することを一つの方向性として決めました。そして、公民館学級の中に「コンサートづくりコース」を設けて、そこでコンサートに関わる様々な話し合いを行い、その中に、ひかり学級や土曜学級のメンバーや、とびたつ会のメンバーも巻き込んでいくというスタイルをとったのです。しかも、今回は、青年学級のメンバー以外の参加者も積極的に募集しました。とびたつ会の主導で行われてきたここ 10 年ほどのコンサートづくりでしたが、今回は、早い段階から青年学級で議論を始めて、実行委員会の開催を呼びかけることによって、青年学級ととびたつ会とが一体になって、話し合いを進めていくことができました。

また、公民館学級の劇ミュージカルコースでは、コンサートで津久井やまゆり園の事件のことを何らかのかたちで訴えたいというメンバーが、劇づくりに取り組みました。コンサートづくりのコースが、全体的にコンサートを作っていくという役割を果たすのに対して、自分たちは、具体的な発表内容を作っていくという役割の分担をはっきりと意識して、活動が進められていきました。当初は、コース活動でつくられたミュージカルをコンサートの舞台でも上演できることをねらっていましたが、残念ながらステージで上演できるミュージカルとすることはむずかしく、その成果は、合唱のステージの中で発表されることになりました。歌作りの方は、コンサートで歌われることを十分に意識して作られることも少なくないですが、コンサートでの上演を意識して、ミュージカル作りに取り組んだことは、ほとんどありませんでした。

5. まとめ

2018 年度は青年学級が始まってから 45 年目にあたります。また、2019 年 5 月に開かれた第 19 回若葉とそよ風のハーモニーコンサートは開始から 30 年が経っています。

今回の委託研究で私たちが目指したものは、こうした長い歴史の中で積み重ねられてきたものを、障がい者の生涯学習の一つのスタイルとして示すことでした。

当事者にとってどうであったかということについては、コンサートのステージ上での当事者の姿から、私たちは、一定の評価を下してもよいかと思えます。そこにいたのは、自分たちに関わる様々な問題を、ミュージカルや歌、スピーチなどを通して、主体的に訴える文化の発信者でした。

一方、私たちの側には様々な課題が存在しています。それは、スタッフの体制の問題です。青年学級やコンサートの内容は、確実に歴史を積み重ねるとともに、より深いものになっているのですが、スタッフの人数の不足はつねに大きな課題で、スタッフ間の議論も不十分な中、活動が進められています。ボランティアに目を向ける若者が減ったというわけではないと思われますが、そうした若者たちの関心が、なかなか障がい者の社会教育には向いてこないというのが実情でしょう。

今回の委託事業は、こうした障がい者の生涯学習に目が向けられるよい機会でもあります。障がい者の生涯学習＝社会教育という世界が、大きな可能性を秘めているということを、ここで確認しておきたいと思えます。

ところで、障害者権利条約に示された合理的配慮は、国家や社会に対する義務として定められたものですが、合理的配慮は、一方的に国家や社会が行うものではなく、当事者自身が権利として求める

というもので、そこには当事者の主体性が先にあることを見落としてはなりません。

当事者が本当に要求している生涯学習とは何なののでしょうか。往々にして、それは、健常者が享受できて、障がい者が享受できていないものというようにとらえられがちです。

しかし、障がい者青年学級や若葉とそよ風のハーモニーコンサートを通して、私たちはそのような図式ではとらえられないものを実感してきました。それは、当事者の本当に要求しているものを一言で表現するのはむずかしいですが、「人として自分らしく仲間とともに生きていきたい」ということだと言ってもいいのではないかと思います。そして、その要求に寄り添うことで、私たちは、それまで私たち自身が問うことのなかった様々な問いに出会い、私たちだけでは作ることのできない表現活動に出会いました。

少なくとも、青年学級やとびたつ会の活動においては、私たちは、当事者に何かを提供したという実感はありません。当事者とともに、私たち自身が知らないものをともに創造してきたというのが実感です。

この活動に携わるスタッフの中には、長期にわたって関わり続けている者が少なくありません。スタッフ自身にとって、こうした活動に関わることで、自らにとって大変豊かな体験となっているからに他ならないと言ってよいでしょう。

その意味で、社会教育における「障がい者の学びの支援」というのは、一方通行の支援ではなく、当事者と支援者の間の学び合いを通じた共同作業の性格を持つものだと言うことができるのではないのでしょうか。

町田市障がい者青年学級担当者
柴田 保之

(2) 2018年度の取組紹介

- ①うたの教室
- ②支援者養成講座 同じまちに生きるあなたとともに
- ③スタッフ研修 青年学級の新しい流れ
- ④視察 見晴台学園・聖母の家学園

うたの教室

ねらい

障がいのある人が、ボイストレーニングと歌唱練習によって、元気と自信をつける講座を目指す。
講座の最後にステージに立って歌をうたう。

講座終了後は、障がい者青年学級でつくりあげるコンサート(わかそよ)に合流することを目指す。
障がいのある人が、講座をとおして力をつけ、さらにコンサートに出演し、社会にアピールする力をつける。

成果

- ①障害者手帳所持者16名(身体8、知的5、精神4。重複あり) 延58名の参加
- ②自主サークル(風になる会)の立ち上げ
- ③わかそよへの参加



発表会を終えて

講座風景



文部科学省受託 障がいのある人の生涯学習支援事業

うたの教室

ボイストレーニングと、うたを学ぶ講座です。
大きな声を出すことで、元気な体をつくりましょう。
大好きなうたをうたって、思いを伝えましょう。
最終回はステージに立ってうたいます。

無 料

日時：①10月13日 ②11月10日 ③12月8日
④1月12日 ⑤2月2日
土曜日 全5回

午前10時～正午 ※⑤最終日は午後5時まで。

会場：生涯学習センター 6階 視聴覚室 ※最終日は7階 ホール
町田市原町田 6-8-1 町田センタービル（レミィ町田のあるビル）

対象：市内在住で、18歳以上の障がい者手帳を
お持ちの方

定員：15人

講師：岩桐 永幸^{いわきり えいこう}さん シンガーソングライター



申込み：電話で、9月15日（土）9時から
生涯学習センター（042-728-0071）へお申込みください。

	月 日	内 容	講 師	会 場
1	10月13日	ボイストレーニング & うたの練習	岩桐 永幸 シンガーソングライター	視聴覚室
2	11月10日			
3	12月8日			
4	1月12日			
5	2月2日	発表会		ホール

問合せ：生涯学習センター
電話 042-728-0071

同じまちに生きるあなたと共に ～障がいのある人との関わり方を学ぼう～

ねらい

障がいのある人の学習活動を支援する大切さを学ぶ講座を目指す。座学のほか、青年学級での体験も行い、障がいのある人への理解を深める。また、わかそよ実施に当たり、活動を豊かにするため、支援の担い手を増やす。

成果

①13名の参加

②わかそよ、青年学級への支援者2名の獲得



ゆうやけ子どもクラブ代表 村岡真治 氏

講座風景



同じまちに生きるあなたと共に ～障がいのある人との関わり方を学ぼう～



◆日時 ※各回 午後2～4時

回	日付	内容	講師
①	9月29日(土)	お話し 障がいのある子ども・青年の「心」に出会う～ボランティアのきっかけはさまざまでいい～	ゆうやけ子どもクラブ代表 村岡 真治さん
②	10月 6日(土)	お話し 障がいのある青年とともに学ぶ～より良い場を作るための具体的なヒント	障がい者青年学級担当者 彦根 睦さん
③	10月13日(土)	お話し あふれる思いを届けよう	國學院大學教授 柴田 保之さん
④	10月27日(土)	体験 障がい者青年学級(土曜学級)	—
⑤	11月 4日(日)	体験 障がい者青年学級(公民館学級)	—

◆対象 障がいのある人との活動に興味・関心のある方
(講座修了後に、来春の発表に向けて定期的に行う障がいのある人の学習会を支援いただく方には、謝礼をお支払いします。)

◆場所 町田市原町田6-8-1 町田センタービル 6階 視聴覚室等
※レミィ町田のあるビル(旧109machida)

◆申込・ 9月1日(土)午前9時から生涯学習センターにお申込みください。
問合せ 町田市役所 生涯学習センター 電話 042-728-0071

障がい者青年学級の新しい流れ

ねらい

障がい者青年学級の関係者や同事業に関心のある一般市民を対象に、他自治体等各地で青年学級に関わる職員、スタッフが持ち寄った実践事例を把握し参考とすることで、今後の青年学級の活動の発展・向上に繋げることを目的とする。

- ・3つの分科会に分かれ、青年学級従事者、学識、青年学級参加経験者のそれぞれの立場の方からの実践報告をすることで、見聞を広める。
- ・青年学級の活動日と合わせることで、青年学級の見学を可能とし、活動に対する理解をより深めてもらう。
- ・障がい者青年学級に関心がある参加者とさらに繋がることができるよう、講座終了後に懇親会を開催する

成果

- ①49名の参加
- ②各地の青年学級の活動が豊かになるきっかけ作りができたこと
- ③支援者間での交流を深める場を作り、支援者同士のつながりを作れたこと

第1分科会「実践報告から見える新しい流れ」アンケートから

- ・「対等とは何か」というテーマは私が高1でえびすを始めたころから考えているテーマだったので、外の世界のお話を聞けてよい刺激となりました。
- ・渋谷と川崎市の具体的な活動、取組を知ることができて大変勉強になりました。地域によって異なる部分が多いこともわかりましたが、川崎市のボランティアを増やすための取組（障がいについて知る講座を開き、自然な形で障がい者学級について知ってもらう）はとてもヒントになりました。渋谷区、川崎市とも活動内容も参考にしたいと思うものもたくさんありました。
- ・他市の青年学級の活動、運営のやり方や課題などの話を伺うことができて大変有意義でした。特に他市のボランティア確保の方法と活動内容を決める際の苦労、工夫を伺えたのが良かったです。是非今後の青年学級運営に役立てていきたいです。
- ・さまざまな青年学級の事例について知ることができて有意義だった。さらに政策も含めてより広く青年学級を位置付けて認識ができてよかった。



第2分科会「大切なあなた、かけがえのない私」アンケートから

- ・ 障がい者の多様性に応えるための生涯学習の役割の必要性和それを支える人材の確保がないと理念だおれになってしまうという危機も持っています。こうした交流や流れが大きいうねりになる事を期待します。
- ・ 国分寺では青年学級が5年でステップアップして支援する立場になるという考えはいいと思いました。町田の青年学級も卒業してステップアップする方法を考えた方がいいと思います。障がいのある人の学校卒業後の暮らしにくさがあるところをもっと知りたいです。生きにくさという問題はとても広く個々人で違うのかもしれない。それをどう自分で発信したがだれにきいてもらったら援助してもらえるのか孤独なのかなと本当に厳しいものを感じた。
- ・ 平井先生の講義には、全くそうだなとうなづき、問題と課題がさらに見つけ出しでき、支援のやり方の大きな参考知識を得られました。支援する方々の知識知恵(経験)と熱意が不可欠と感じました。
- ・ (地域の)障がい者のための支援と生涯学習(青年学級)との関係について、また支援のためにも生涯学習事業(青年学級など)の重要性が改めてわかったように思います。(とてもすべて理解できたとはいえないかと思いますが)そしてやはり必要に応じた法整備が必要かと思います。
- ・ 家族との関係による影響や犯罪、性についての課題等、非常に勉強になりました。
- ・ 障がい者の性支援は興味深く、彼らは「子ども」の役割しか担えず、ずっと子どもとしての振る舞いしかしなかった。という点が腑に落ちてよかった。その先にある恋愛、結婚、パートナーとの生活などの人生ステージの欠如への取組が必要。
- ・ 暮らしのルールブックの存在や性に対する勉強をする場所があったとしたら是非活用したい。してもらえよう情報を伝えたい。しかし青年学級は順番待ちと聞いている。どれくらいの人が実際受講できるのだろう？
- ・ 午前の部で活動を見学した。素晴らしいと思う。当事者自身の言葉を発信していく必要がある。全員が少しでも同じような機会があったらよいのに。
- ・ 「青年学級の支援のための法律がない。」ということは初めて知りました。障がい者が生涯にわたって学習する事の必要性、そのために国の支援が必要不可欠な事など、貴重なご意見を拝聴させていただき、誠にありがとうございました。

第3分科会「地域で生きて、暮らし続ける」アンケートから

- ・ 障がい者のご夫婦の生活を知ることができて良かった。いろいろな夫婦の生活スタイルもある中で、行政とうまく交わりながら今後も仲良く生活してください。
- ・ 結婚された方のそれまでの経緯を教えていただき、大変勉強になりました。苦しい時をのりこえて今があるのだということを感じました。ありがとうございました。
- ・ ご夫婦お二人で助け合いつつ困難な部分は支援を受けつつ暮らされている姿がよくわかる発表だったのでとても良かったです。何かクリアしなければ結婚できないではなく、お互いの大切に思う気持ちがあれば結婚生活を営むことができますと再認識することができました。



障がい者青年学級の新しい流れ



障がい者の切れ目ない生涯学習を保障するために、私たちの地域には、「障がい者青年学級」があります。

今回は、各地の学級運営にかかわる職員、スタッフ等の皆さんの実践事例を持ち寄るとともに、障がい者をめぐる様々な課題について話し合い、これからの活動をより豊かに、発展させていくための方法をいっしょに考えます。

月 日：2019年1月20日（日曜日）

時 間：午後1時～5時まで
（開場12時30分）

場 所：町田市生涯学習センター
（まちだ中央公民館7階ホール）

定 員：100名

参加費：無料

対 象：青年学級スタッフ、公民館職員
青年学級参加者、支援者、関心のある一般市民

申 込：1月4日午前9時～電話受付
（名前、所属、電話、希望する分科会、
見学の有無、懇親会参加の有無）
※余裕のある時は当日の参加もできます。

申込・問合：町田市生涯学習センター
電話 042-728-0071

○ 概要

13:00 開会のあいさつ
生涯学習センター長
会の趣旨、進め方

13:20 分科会

- ① 実践報告
- ② 「大切なあなた、かけがえのない私」～生きづらさを抱える障がい者の支援とは～
- ③ 地域で生きて、暮らし続ける
【詳細は裏面】

○見学

午前中、町田の青年学級活動が見学できます。希望者は、事前申し込み時にお知らせください。
（15名限定）

○懇親会

終了後、懇親会を開催します。希望者は、事前申し込み時にお知らせください。

主催：町田市生涯学習センター
後援：特定非営利活動法人
町田ハンディキャプ友の会

○ スケジュール

- 9:30 (事前予約者のみ) 町田市障がい者青年学級を見学
- 12:30 受付開始
- 13:00 開会のあいさつ
町田市生涯学習センター長 塩田 一人
会の趣旨、進め方
- 13:20 分科会
- ◇ 第一分科会 「実践報告からみえる新しい流れ」
 - ・ 川崎市教育委員会 (高桑有未さん)
 - ・ 渋谷区えびす青年教室リーダー (吉田恵美花さん)各地の青年学級の取り組みを参考に、これからの課題や未来の青年学級について話してみませんか。
 - ◇ 第二分科会 「大切なあなた、かけがえのない私
～生きづらさを抱える障がい者の支援とは～」
(平井威さん (明星大学客員教授))
生きにくさを抱えた障がい者が自分らしく生きていくためには、青年学級のような学びながら成長できる場が必要です。大きな課題を抱える障がい者を支援する方法についてみんなで考えてみましょう。
 - ◇ 第三分科会 「地域で生きて、暮らし続ける」
(堀正明夫妻 (元・町田市青年学級参加者))
青年学級に参加して様々な学習をし、今は地域で生活するお二人と、青年学級の果たす役割について話してみたいと思います。
- 16:45 まとめ、閉会

地図

町田市原町田 6-8-1 042-728-0071

JR横浜線 町田駅 徒歩3分 小田急線 町田駅 徒歩5分



主催：町田市生涯学習センター
後援：特定非営利活動法人
町田ハンディキャップ友の会

視察①

見晴台学園・見晴台学園大学

- 青年学級を卒業し他本人活動の会、“とびたつ会”では、11月30日(金)と12月1日(土)に、先進実践視察旅行として、総勢36人で愛知県名古屋市の見晴台学園と同大学の見学と交流、三重県四日市市の聖母の家学園マリアボーイズ&ガールズのハッピーコンサートに参加しました。
- 見晴台学園は、発達障がいをもつといわれる中学卒業後の人たちが通う学校です。そして、見晴台学園大学は、見晴台学園を卒業した人たちが特別支援学校を卒業した人たちで、仕事に就く前にもう少し学びたいと思う人たちと、その思いを支える親、関係者でつくった福祉型専攻科の大学です。
- 交流では見晴台学園の東海道についての研究発表と、同大学で取り組んだコップを使ったパフォーマンスを習得する過程を撮影した映像を観るとともに、実際にとびたつ会のメンバーも参加してパフォーマンスを行いました。お互いに活動を発表しあい、充実した交流となりました。



コップを使ったパフォーマンスでの交流風景

全体で集合写真



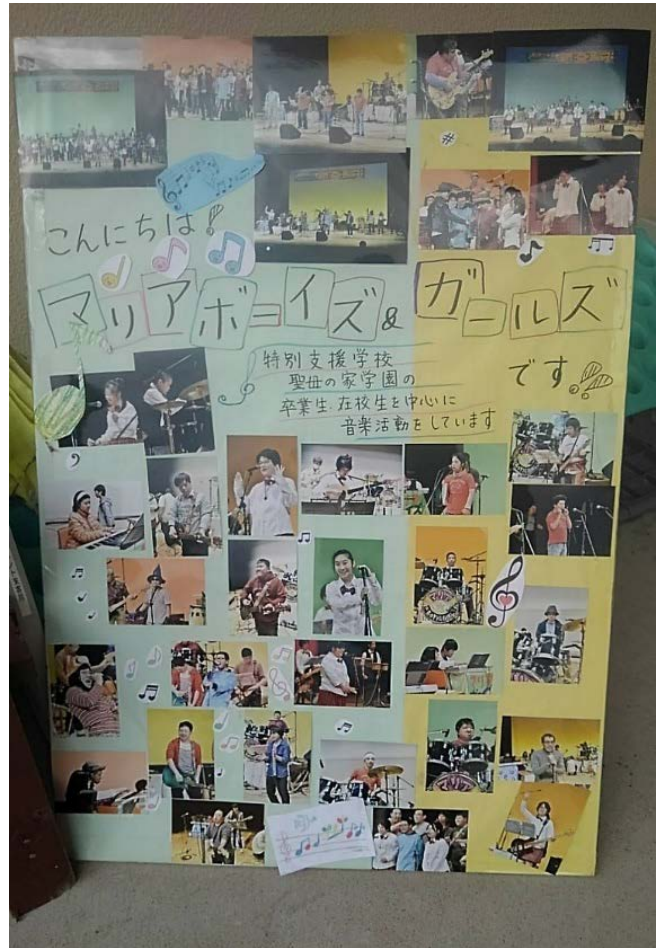
視察②

聖母の家学園

聖母の家学園交流・ハッピーコンサート参加

名古屋を出発して、四日市に移動して宿泊。翌日12月1日(土)は、バスを使って聖母の家学園に向かいました。会場の体育館では、すでにマリアボーイズ&ガールズのリハーサルが行われており、私たちは教室を借りて、昼食を食べました。その後コンサート直前の時間に、マリアボーイズ&ガールズのメンバーが来てくれて、お互いに歌を交換しあいました。

いよいよコンサートです。会場の体育館はお客さんでいっぱい、それでもとびたつ会用に最前列の席を用意してくれていたの、座って見ることができました。すべてオリジナルの歌と、エレキギター、ベース、ドラム、キーボードを駆使した演奏と歌は迫力満点でした。3つのグループのそれぞれの工夫をこらしたパフォーマンスには、一人一人の個性が発揮されていました。



会場前の看板

フィナーレ



(3) 2019年度の取組紹介

①おーい！踊りって素晴らしいぞ！

ヘンテコでも気にするな！自分だけの踊りと出会う旅

②障がいのある人の生涯学習を考える

～ともに学ぶ場づくりを目指して～

③障がいのある人の学びを拡げる場 青年学級の新しい流れ

④各種コンサートへの出演

⑤視察・成果の周知

おーい！踊りって素晴らしいぞ！

障がいがあってもなくても

自分だけの踊りと出会う旅

ヘンテコでも気にするな！

ねらい

障がいのある人に限らず、本講座に参加する様々な属性の方々とともに、踊りづくりを行う。チェロ演奏家のリズムにとらわれない生演奏に合わせ、参加者それぞれの生み出した動きを組み合わせ、「生きること」をテーマとした30分ほどの作品づくりを目指す。

成果

①延43名の参加（知的、肢体、聴覚含む）

②踊りを素材として、自己表現、集団での表現活動に、障がいのある人ない人が一体となって作品づくりと、発表。障がいのあるなしだけでなく、老若男女が参加し、発表までの過程が描かれたことで活動に熱が入り、駆け抜けていくような活動となった。

アンケートから

・自由な雰囲気でのびのびと自分の内面の感情をダンスという手段で表現することができて楽しかったです。12月22日の本番楽しみにしています。

・練習2回で温かいチームワークを感じました。本番でどんな迫力が出る作品ができるのかとても楽しみです。

・前回もそうでしたが、今回も皆さんの体と頭の柔らかさに感心しました。今回はお子さんも混ざっていたので、場の雰囲気も前回より、より和む感じがして、面白かったです。もう何回かやってからの発表の方が良いのかなあと個人的には思いますが（自分の踊りに自信がないので）当日も楽しみたいと思います。

練習風景

・ペアで動きのやりとりをすると断然、場が温まってみんなのエネルギーを部屋いっぱいに感じる事ができました。当日の進行についてみんなが質問し始めたら、なんだかみんなで作ってゆくという機運になってきて、私はがぜんやる気が出てきました。今日、相方のエネルギーを取り入れながら自分のダンスができました。本番そうできるとよいと思います。

・おもいっきり体うごかすきかいなかったの、たいそうとおどりをおもいっきりできて楽しかったです。こんからもできるだけつづいてみんなとさんかしたいです。



おーい！踊りって素晴らしいぞ！

障がいがあってもなくても

自分だけの踊りと出会う旅

ヘンテコでも気にするな！

文部科学省委託障がいのある人の生涯学習支援事業

①11/24(日) ②12/8(日) 各回 13:00-16:00

発表ステージ 12/22(日) 10:30-11:00

会場：まちだ中央公民館 7階ホール

町田市原町田6-8-1 町田センタービル ※レミィ町田のあるビル(旧109machida)

若者、大人、高齢者、障がい者、お金のない人、落ち着きのない人、飽きっぽい人、気が短い人、踊ったことのない人、途中で帰りたくなる人、後ろの方でこっそりがいい人、どなたでもどうぞ。いろいろな身体が出会い、そこだけの踊りを生み、そこで生まれるダイナミズムを共有します。リズムにとらわれないチェロ演奏家の生演奏の中、それぞれの生み出した動きを組み合わせ、旅（生きること）をテーマにした30分ほどの作品を生み出します。

対象：いずれかに該当し、全回に参加できる方

- ① 18歳以上で障害者手帳をお持ちの方
- ② 18歳以上でダンスに興味がある方

定員：20名（申込順）

申込：11月1日（金）午前9時から以下にお申込みください。

主催：町田市生涯学習センター

電話：042-728-0071

講師：アオキ 裕キ（アオキユウキ）
ダンサー・振り付け師



1988年よりジャズダンス、ストリートダンスを始める。タレントのバックダンサー等メディア中心の活動から2001年、NY留学時にテロと遭遇し自身の根底を追求。2004年、NEXTREAM21最優秀賞受賞。生きることに関わり合う身体を求め、2005年に路上生活経験者と共に「新人Hソケリッサ！」の活動を開始。コニカミノルタソーシャルデザインアワード2016、グランプリ受賞。

障がいのある人の生涯学習を考える

～ともに学ぶ場づくりを目指して～

ねらい

「障がいのある人が必要とする学び」とは何か、その学びの場はどういったものなのか、なぜそういった場をつくる必要があるのかを整理した上で、障がい者青年学級を含め「障がいのある人の生涯学習」の取り組みが目指すものを言語化し、関係者の支援促進、支援者のやる気増加を図る。

講座内では、数名に分かれてのワークショップを主として、支援に携わる方やその他関係者へのヒヤリングも交えながら、①障がいのある人が必要とする学びとは何か、②その支援の方法はどういったものなのか、などを整理した上で、③ともに学ぶための行動指針を作る。

成果

- ①延28名の参加(知的、精神、青年学級支援者)
- ②行動指針(案)の策定
- ③行動指針に替わる言葉として「みんなのあすとみらいの約束」の提案

アンケートから

- この度は、話し合いに参加させて頂き、ありがとうございました。及び腰で参加させて頂いたはずが、親子二人で図々しい感じになりまして、失礼いたしました。それもこれも、プログラムや関係者さん、参加者さん、皆様の今までの経過があったからだろうなあ、大変だろうなあ、とすみじみ致しました。(子の名前)の嬉しそうに頬を紅潮させ、目をキラキラさせている場面を久しぶりに見た感じです。とても良い時間をありがとうございました。
- 今日はありがとうございます。こういうところで知らない人と同じテーマで話し合うことが僕は今までなかったので、難しいかもしれませんが定期的に関催して欲しいです。



それぞれが目指す青年学級の姿をイラストにしました

障がいのある人の生涯学習を考える

～ともに学ぶ場づくりを目指して～

日時 2019年 11月 3日(日) 13:30 - 17:30

11月10日(日) 13:30 - 17:30

参加無料

会場 町田市生涯学習センター **対象** 生涯学習の場づくりに関心のある方

町田市原町田6-8-1 町田センタービル7階
※レミィ町田のあるビル (旧109 machida)

学生の方や日ごろ障がいをもつ方の支援に携わられる方、障がいをお持ちの方、父母の方など、どなたでもご参加ください。

プログラム ※プログラム内容は変更する場合がございます。

第1回 (11/3)

- 1, ファシリテーター挨拶
- 2, アイスブレイク / 自己紹介
- 3, 事例紹介 (町田市障がい者青年学級について)
- 4, ワークショップ (ともに学ぶ場づくりを考える①)
「障がいのある方の生涯学習支援のあり方」をテーマに
「ともに学ぶ場とは？」という問いに参加者全員でキーワードを出しながら、意見を共有していきます。

第2回 (11/10)

- 1, アイスブレイク / 第1回のふりかえり
- 2, ワークショップ (ともに学ぶ場づくりを考える②)
第1回で挙げたキーワードをもとに、場づくりのためのアクションガイドライン (行動指針) を考えてみます。
分かれたグループごとに、キーワードを整理し、出来上がったガイドラインを発表し、意見交換を行います。
- 3, まとめ

講師・ファシリテーター

長浜 洋二 氏 町田市地域活動サポートオフィス
事業統括ディレクター

モジョコンサルティング代表。1969年山口県周南市出身。
“人が変わる、組織が変わる、社会が変わる”をテーマに、
行政やNPO、ソーシャルビジネス、福祉団体、企業CSR、
財団等のコンサルティングとエコシステムづくりに携わる。
過去には、NTT、マツダ、富士通で約15年にわたり、
マーケティング業務に従事。著書『NPOのためのマーケティング講座』。
ピッツバーグ大学院公共経営学修士 / 法政大学 神奈川大学 講師 / システムコーチ



喜田 亮子 氏 町田市地域活動サポートオフィス
スタッフ

桜美林高校、桜美林大学出身。卒業後は公益財団法人トヨタ財団に就職。国内外の研究や事業への助成の企画開発、運営を担当。これまでの経験を活かして、青春時代を過ごした町田に貢献したいという思いから、サポートオフィスのスタッフを勤める。



お申し込み方法

10月1日 (火) 午前9時から
生涯学習センターにお申し込み
ください。

定員：50名

町田市生涯学習センター

TEL：042-728-0071



障がいのある人の学びを拓げる場 青年学級の 新しい流れ



ねらい

障がいのある人の生涯学習の推進のため、これまでの町田市取組紹介の場として、関係者が一堂に会するよう研修交流会として実施する。

午前は取組紹介の他に、障がい当事者からの発表の場とし、午後に各地域の実践例の紹介を元に、話し合う場とする。

また、昨年同様に、支援者間の交流を深めることを意図し、交流会を設ける。

成果

- ①98名の参加
- ②障がいのある人達の学習成果を発表という形で周知が図れたこと
- ③各地の青年学級の活動が豊かになるきっかけ作りができたこと
- ④支援者間での交流を深める場を作り、支援者同士のつながりを作れたこと

午前の全体会に参加したアンケートから

- ・ ダンスに大変興味がわきました。また、活動を次につなげた、とびたつ会の歌も素晴らしかったです。
- ・ ミュージカル、アート、歌それぞれの良さが伝わり、皆と築き上げてゆくのが素晴らしいと思いました。
- ・ 町田市の障がい者の方の様々な活動を見ることができ、今後自分が障がい者の活動を考えていく中でとても参考になった。
- ・ 豊かな活動ができていてうらやましいが、自分達の市でも小さな努力を重ねて頑張りたい。
- ・ 私の担当する青年学級では午前の全体会のように一般の方に向けた発表の場がないのでとても参考になった。
- ・ 貴重な発表の場であると同時に、地域社会へのアピールだったと思います。
- ・ いきいきとステージで発表している姿を見ることができとても刺激を受けました。
- ・ とびたつ会の活動・歌声に勇気づけられました。



自分だけの踊りを探す旅の発表風景



風になる会 発表風景

午前 全体会の様子



第1分科会「青年学級は今」のアンケートから

- 大変有意義であったと思います。自分が今後運営していくためのヒントがたくさんつまっていたと思います。
- 普段接することのない区部の方と意見交換ができて勉強になりました。
- 青年学級の今というテーマで話をしたが、他自治体の取り組みを担当職員から直接聞く機会がなかったのもとてもよい機会だった。

第2分科会「新しい形の学びの場」のアンケートから

- 今まで知らなかった事に触れて勉強になりました。
- 民間の方のパワーを感じました。とても勉強になりました。
- 発見がありました！
- 放課後支援や障がい者青年学級などが重要であることを知った。(余暇活動支援事業)
- 高等部を卒業した後いかに自立していきいけるのか
- 様々な実践が見られて面白かった。

第3分科会「地域で生きる」のアンケートから

- 自分が発表してとても反響が良くて話せて良かったです。
- 本人活動を考えるうえで、ヒント学ぶことが多かった。
- お話の中で、軽度のような人への支援がむしろ足りていないとも考えました。
- 友達を作るのが苦手、集団が苦手という場合は誰にどこに相談できるか気になった。
- 障がい者の制度と高齢者の制度を良い意味で統合してほしい。
- 当事者の方の想いを直で聞くことができて良かったです。
- 当事者の話も非常に有意義だったしそれを引き出す司会進行と会場の方々の前向きな参加も印象的でした。
- 人それぞれの暮らし方があり、正解はなく本人が幸せに暮らせることが大切だと感じた。
- シェアハウス私も住みたいです。
- 中身の濃い充実した内容、皆さんお疲れ様でした。
- 具体的に言われていやなこと、されたくないことを話してくれたのが良かった。語れる人が語れない人の声を仲間として代弁できると感じました。

第4分科会「ボランティアから見た青年学級とは」のアンケートから

- ボランティア、講師、保護者の立場から様々な思いや考え、要望を聞くことができ、とても参考になった。「活動を楽しむ」ことを考えさせられた。
- 各市の取り組みの様子を直に聞くことができ良かった。
- 現場の声がストレートに伝わってきました。
- 他市の青年学級の活動が良く分かり参考になりました。
- これからの取組について考えるよい機会となりました。

午後 分科会の様子



文部科学省委託障がいのある人の生涯学習支援事業



障がいのある人の学びを拓ける場 青年学級の 新しい流れ

午前 全体会 障がい当事者の学習成果の発表

午後 分科会 各地の学習活動の取り組み紹介

※ 各プログラムの詳細は裏面をご覧ください。

12/22(日)
10:00-17:00
(18:00-交流会)

会場 まちだ中央公民館 7Fホール 他

町田市原町田6-8-1町田センタービル ※レミィ町田のあるビル(旧109machida)

定員 158 名 (申込順)

申込 11月15日(金) 午前9時～、
町田市生涯学習センターへ
お申し込みください。

- ① 氏名 ② 電話番号
- ③ 希望する分科会
- ④ 交流会の参加の有無

電話 042-728-0071
(町田市生涯学習センター)

会場へのアクセス



横浜線町田駅北口から徒歩約3分
小田急線町田駅南口から徒歩約5分



全体会 10:00-12:00 障がい当事者の学習成果の発表

- ① 「自分だけの踊りと出会う旅」 (ダンスの発表)
- ② 本人活動の会 とびたつ会 (うたの発表)
- ③ 風になる会 (うたの発表)

分科会 13:00-17:00 各地の学習活動の取り組み紹介



① 青年学級は今

与儀 睦美 さん (葛飾区かつしか教室)

針山 和佳菜 さん (国立市しょうがいしゃ青年教室)

全国で初めて、23区で障がい者の社会教育が取り組まれて、55年が経ちます。あれから何が変わり、何が変わっていないのか、2つの青年学級の報告を受けた後、青年学級の「今とこれから」について、皆さんと議論します。

② 新しい形の学びの場

大森 梓 さん (練馬区(特)障がい児・者の学びを保障する会)

下田 大輔 さん (東久留米市かるがも花々会青年部)

引地 達也 さん (シャローム大学校長)

障がい者の様々な学びのニーズに応じて、就労支援の立場から、余暇活動支援の立場から、いろいろな角度から新しい学びの場の試みが始まっています。その取り組みの具体的実践に学びながら、その新しい流れの中でこれまでの青年学級の在り方を振り返り、これからの青年学級の在り方を問い直し、その役割を改めて確認できたらいいと思います。

③ 地域で生きる

～ひとりで・ふたりで・みんなで暮らし、学ぶ～

中谷 豊さん (町田市障がい者青年学級)

川上 一三さん、裕美さん (NPO理事・バソコンサークル主催)

真鍋 悦子さん (稲城市おしゃべりサロン)

ひとりで暮らしていてもふたりで暮らしていても、みんなで暮らしていても、1人だけの力では生きていけません。親や兄弟姉妹、友達やヘルパーさん、困ったときに相談する人がいると安心して生活することができます。いろいろな暮らし方をしている方々からお話を聞いて、地域で生きること考えていきたいと思います。

④ ボランティアから見た青年学級とは

桂田 稔彦 さん (国分寺市くぬぎ教室)

長谷川 宏子 さん (葛飾区かつしか教室主任講師)

ボランティアが集まらない、定着しない、よくこんな悩み。障がい者とボランティア、ともに学ぶ青年学級。ボランティアにとっても魅力ある活動が大切。そんな魅力のヒントをもとに、話し合うことは、とても魅力的かな。

各種コンサートへの出演

ふれあいコンサート

主催：東京町田サルビアロータリークラブ

日程：2020年2月15日（土）午後2時～4時30分

場所：和光大学ポプリホール鶴川地下2階ホール

内容：障がいのある人たちを主役にとのテーマで実施するため、まちカフェ！での発表を見た東京町田サルビアロータリークラブから若葉とそよ風のハーモニー合唱団に、謝礼付きでの出演依頼があり、70名程度が参加し、30分程度の歌の発表。

プログラム：①木曽中学校吹奏楽部 ②若葉とそよ風のハーモニー合唱団 ③式町水晶 ④フィナーレ

出演者の感想：コンサート終了後、イベントロス状態になってしまい、週明けの作業所には泣きながら通所し、コンサートが終わってしまい、寂しいことをみんなに言ってほしい。

参加者の感想：色んな年代の学級生の方たちが、皆さんでケアしながら、一生懸命に歌ったり、歌おうとしていらっしゃる姿に、ついつい涙腺が緩んでしまいました。素敵な時間を有難う。

連携協議会委員のコメント：今回のテーマとして位置付けた「学びから発表へ」だが、ふれあいコンサートで出演料がもらった話を聞いて感じたことだが、自分が学び、学習しただけではなく、人に学習した成果を発表し、発表に対するリアクションがあること、特に出演料をもらえるということは自分たちの学習活動に対する価値を認めてもらうことでもある。学んでいく意味でも価値を重ねていけるというのは大きな意味を持ちうるのではないか。自分がやっていることが周りから見られることは、うれしいことで、活動にも張りがでてくる。発表があることは学びを掘り下げていく、いいきっかけになった。



とっておきの音楽祭in Machida

主催: とっておきの音楽祭実行委員会

日程: 2019年5月26日(日)午前10時～午後5時

場所: 町田駅近隣

内容: 地域の音楽祭では障がいの有無に係らず、音楽というツールを利用し、多様な者との交流を図ることを目的に行われている音楽祭に、わかそよ合唱団として20名程度で20分の出演。



市民協働フェスティバル まちカフェ！

主催: まちカフェ！実行委員会

日程: 2019年12月1日(日)午前10時～午後4時

場所: 町田市庁舎1～3階

内容: 町田市内で活動する団体が一堂に集うイベントで、午前中にオープニングアクトとして50名程度が出演し、20分の歌の発表、午後には3階のまちカフェ！ステージで40名程度が出演し、20分の歌の発表。このコンサート活動が先述されている「ふれあいコンサート」に出演するきっかけとなり、後日、主催者の東京町田サルビアロータリークラブから出演依頼を受ける。



視察・成果の周知

全国障がい者生涯学習支援研究全国大会

主催:全国障がい者生涯学習支援研究会

日程:2019年11月30日(土)午前10時～午後5時

場所:愛知みずほ短期大学

目的:町田市のこれまでの取組について、全国から集まった参加者に向けて、発表という形を通して、周知を図るとともに、全国の様々な障がいのある人の生涯学習について学ぶ。

視察・取材の受け入れ

団体:韓国釜山市教育振興院

時期:2019年7月18日

内容:釜山市での障がい者の生涯学習を推進するため、青年学級と若葉とそよ風のハーモニーコンサートの取組紹介



団体:NPO法人逢い

時期:2019年7月21日

内容:秋田県での取り組みに反映するため、青年学級の視察

団体:株式会社アローウィン

時期:2019年11月

媒体:知的障害者の「生涯学習」支援(DVD教材)

内容:青年学級の活動日2回、支援者会議1回の撮影および取材

団体:千葉県教育委員会

時期:2019年11月17日(日)

内容:県内に障がい者の生涯学習を推進するため、町田市の取組紹介及び青年学級の視察

成果の周知

団体:すみれ会

時期:2019年6月

媒体:すみれ会だより2019年度№1

内容:わかそよについて

団体:社会教育実践研究センター

時期:2019年8月19日

内容:社会教育主事講習「社会的包摂と社会教育」の中で、町田市の実践紹介

団体:宮崎県教育庁生涯学習課

時期:2019年9月26日

内容:文部科学省委託事業及び町田市障がい者青年学級の取り組みについて

団体:国立社会教育実践研究センター

時期:2019年11月13日

内容:障がい者青年学級を広めたい職員の研究論文作成のため、町田市の実践紹介

団体:東京都手をつなぐ育成会

時期:2019年11月

媒体:会報TOKYO手をつなぐ11月号

内容:町田市の実践紹介

団体:月刊社会教育編集委員会

時期:2020年6月

媒体:月刊社会教育6月号

内容:青年学級の実践の紹介

学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究

学びから発表へ

発行日 2020年 3月

編集 町田市生涯学習センター

発行 町田市教育委員会生涯学習部生涯学習センター

〒194-0013 東京都町田市原町田6-8-1

Tel 042-728-0071

この冊子は、100部作成し、1部あたりの単価は526円です。